

機関誌委員会

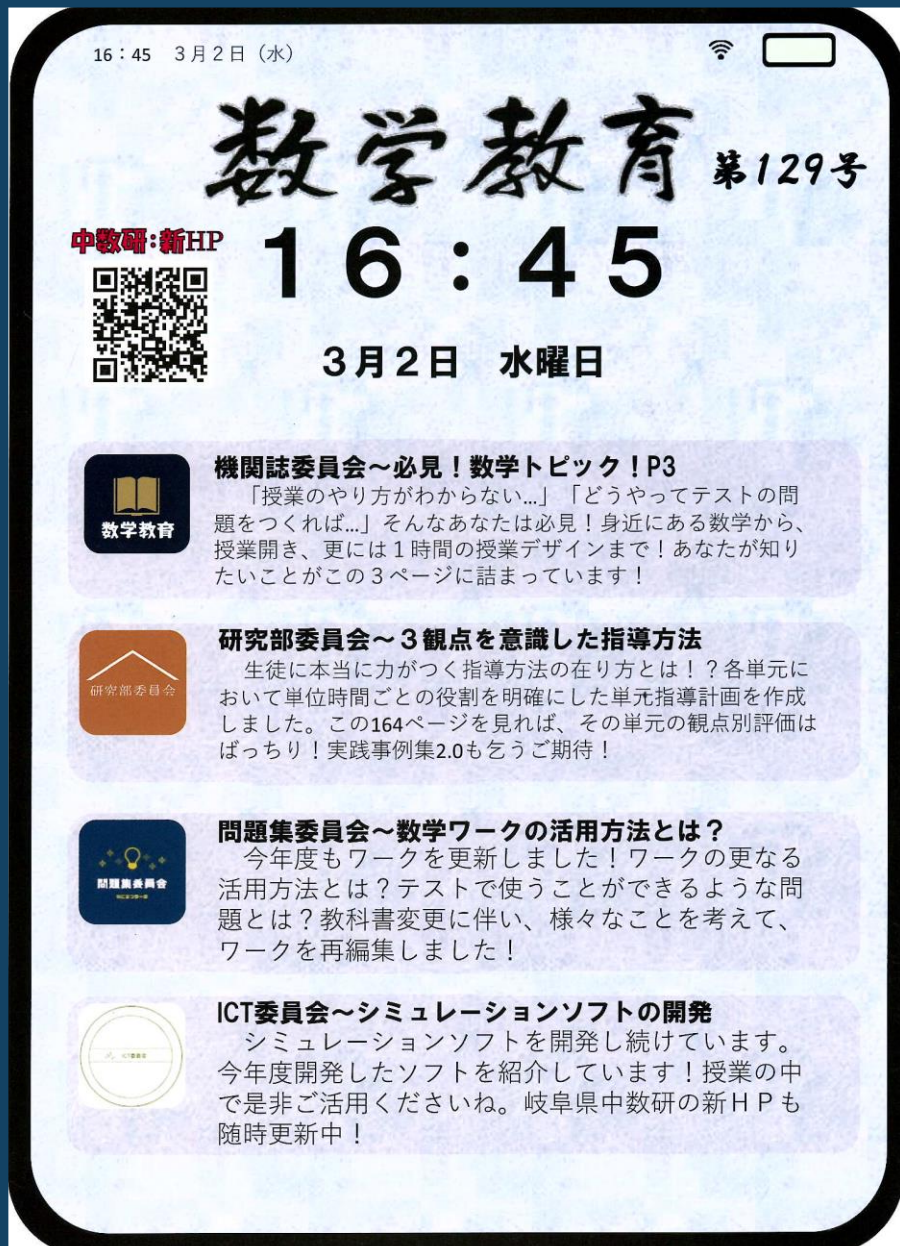
I 機関紙委員会は何してる？

II ところで…

III ニーズに応える

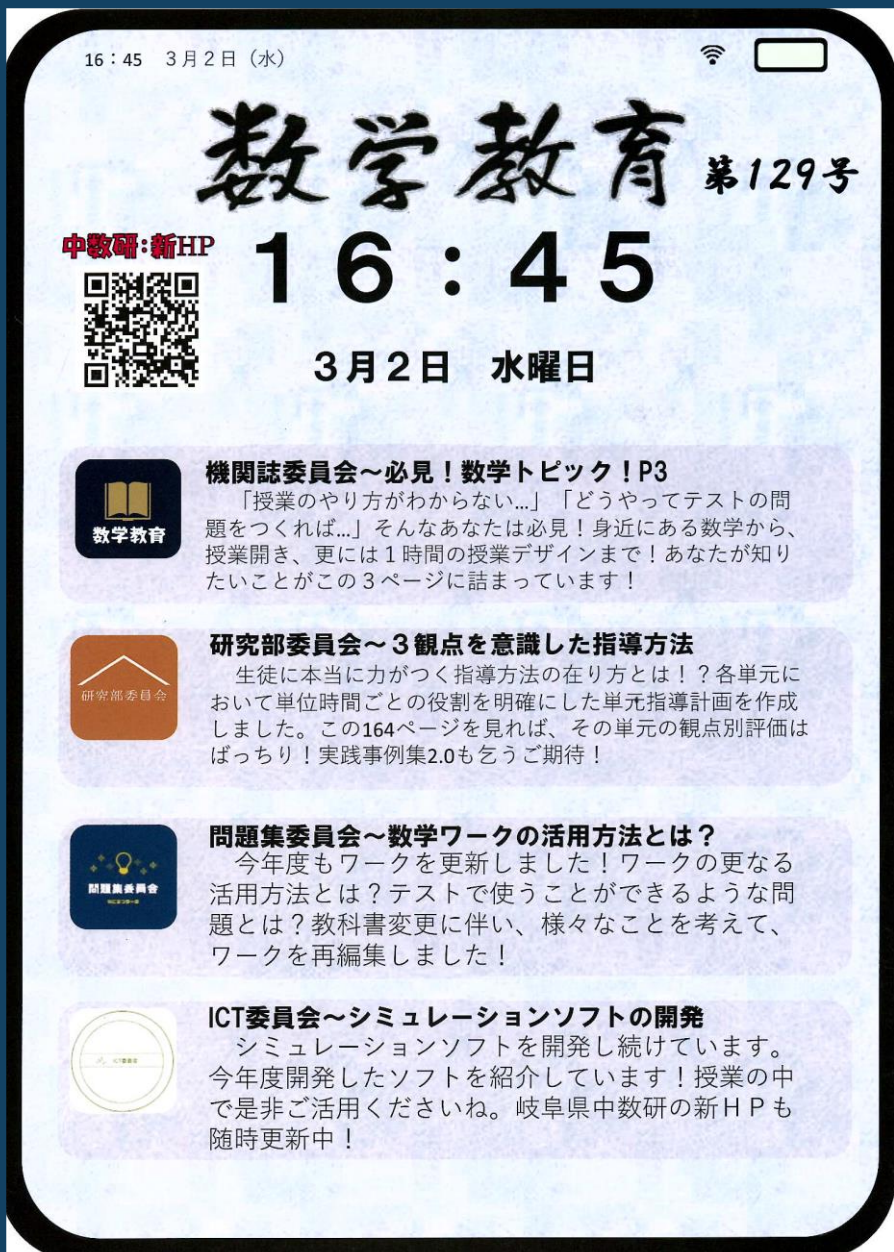
IV 今年度

V アンケートのお願い



I 機関紙委員会は何してる？

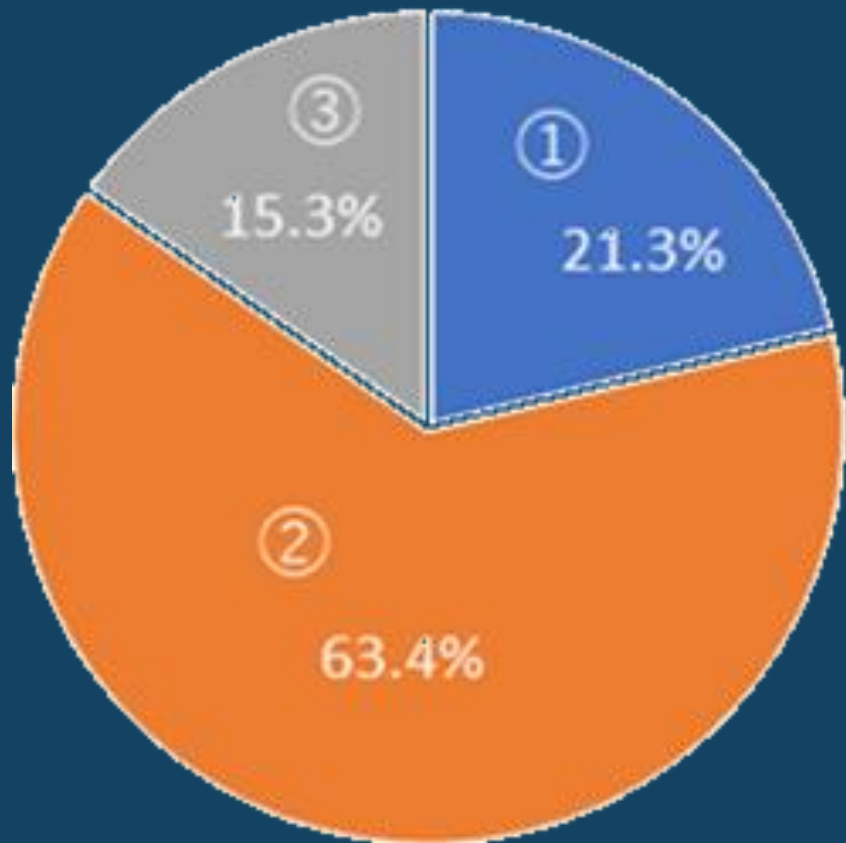
- ▶ 毎年1回「数学教育」を発行
- ▶ 数学トピックの開発
- ▶ 個人執筆者や東海数研，全国大会発表者などの論文添削
- ▶ 先進的な取組を行っている先生方の発掘



I 機関紙委員会の役割

- ① 実践を記録として残すこと
- ② その当時の社会状況や数学教育の状況を未来につなぐ
- ③ 個人執筆者や東海数研，全国大会発表者のサポート
- ④ 面白い数学教育の開発

Q. 発行された数学教育128号を手にとって読んでいただけましたか？



- ① もらって何度か読み返した
- ② もらってから一度は読んだ
- ③ 読まずにしまい込んだ

Ⅱ ところで…

みなさん一度は、
読んでいただけただけで
しょうか？

- 何度も読み返してもらえる
- 日々の実践に生かしてもらえる

数学教育



枕元に置いて…

とは言いませんが…

ロッカーの中から出して
もう一度読んで
いただきたい！！



Ⅲ ニーズに応える Q. 今度，発表するんですが，プレゼンの作成の仕方や形，流れが分かりません！参考にできるものはありますか？

東海数研プレゼン資料（これで15分の提案でした。）	
スライド	発表原稿（◆はスライドを切り替えるポイントです。）
東海地方数学教育研究会 第68回研究大会 【関数】領域 <研究主題> 深い学びを具現する数学教育の創出 ～関数の指導を通して～ 白川町立白川中学校 長瀬 陽哉	これより，加茂郡の研究について説明させていただきます。◆
I.研究主題設定理由 II.研究内容・研究実践 III.成果と課題	次の3点から説明をさせていただきます。◆
	まずは主題設定理由についてです。加茂郡は平成30年度より関数領域における実践をより充実

I. 研究主題設定理由 <出題の意図> 与えられた情報を読み、次のことが出来るかどうかを見る ・数学的に表現したことを事象に即して解釈すること ・数学的な結果を事象に即して解釈すること ・問題解決の方法を数学的に説明すること	皆さんは平成31年度の全国学力学習状況調査の問題に目を通されたでしょうか。私たちは関数領域である大問6，冷蔵庫の問題に着目して実態を調査しました。この問題の出題の意図は◆「・数学的に表現したことを事象に即して解釈すること・数学的な結果を事象に即して解釈すること・問題解決の方法を数学的に説明すること」の3点でした。◆
I. 研究主題設定理由 ・数学的に表現したことを事象に即して解釈すること ・数学的な結果を事象に即して解釈すること ア 本体価格 イ 使用年数 ウ 1年間あたりの電気代 エ 購入してから8年間の電気代 オ 購入して8年間使用するときの総費用	点Pと点Qのy座標の差は何を表しているのかという問題である(1)の問題は次の2点の資質・能力を図る問題でした。正解は◆エなのですが，加茂郡において誤答した多くの生徒はオと解答していました。◆

声にお応えして，**数学教育 129号 P64やP104**に掲載しました

Ⅲ ニーズに応える Q. 一時間楽しく学べるプリントみたいなものはありますか？

数学の世界を楽しむ「数楽」

ひらめきピラミッド！あなたに、この謎が解けるだろうか？

(1) 【加法】

(2) 【加法】

(3) 【加法】

(4) 【減法】

(5) 【減法】

(6) 【減法】

数学トピック ～優勝までの道のりは？～

文責：川島 真子

今年度も、感染症対策の面からいろいろな大会が制限され、会場の滞在時間や試合の出場回数、対戦の組み方…いろいろな点で考える機会がありました。生徒のモチベーションにつながればと思い、優勝までの道のりを試合数という視点で紐解いてみたいと思います。

突然ですが、甲子園の優勝チームを決めるのに何試合あるか知っていますか？
出場チームが多くても、どんなトーナメントの形をしていても、すぐに求めることができます。

① トーナメント方式の試合数を考える

参加するチーム数から考えられるトーナメントの形を書きだします。

2 チーム

試合数 1

3 チーム

試合数 2

4 チーム

試合数 3

左右対称であるので、同じ形とみなす

シードの位置を左右入れ替えれば、同じ形とみなせる

声にお応えして、**数学教育 129号 P3～P29**に掲載しました

Ⅲ ニーズに応える Q. 授業中の発問に困っています。どのように切り返せば、生徒のやる気を引き出せますか？

こんな問い返し発問を使っています！

①「どうすれば解けそうかな？」 → 解決の糸口を見つけさせたい場合 中2 連立方程式

T: 「 $\begin{cases} 2x + 5y = 26 \\ x + 2y = 12 \end{cases}$ は前回のような加減法で解くことができるかな？」

C: 「できません。」

T: 「どうして？」

C: 「 x, y の係数がどちらも違うからです。」

T: 「どうすれば、解けそうかな？」

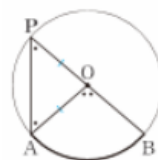
C: 「 x, y の係数が等しくなればできると思います。」

導入時に、生徒の疑問に対して、解決の見通しをもたせる場合に使えます。

②「どうしてそう考えたの？」 → 根拠を明確にさせたい場合 中3 円

T: 「1つの弧に対する円周角の大きさは中心角の大きさの半分であることを証明しよう。」

C: 「 $\angle AOB = \angle P + \angle A \dots \textcircled{1}$
 $= \angle P + \angle P \dots \textcircled{2}$
 $= 2\angle P$ です。」



生徒が説明した内容に、根拠が明確ではない場合に使えます。常に根拠を明確にすることを大切にさせていく上で、必要になってくる発問です。

T: 「①と②はどうしてそう考えたの？」

C: 「①は三角形の1つの外角はそれと隣り合わない2つの内角の和に等しいからです。②は、円Oの半径なので、 $OA=OP$ だから、 $\triangle OPA$ は二等辺三角形となり、2つの底角は等しくなるからです。」

声にお応えして、**数学教育128号** に掲載してあります

とにかく…

日々頑張っている先生方
のニーズや困り感…

力になりたい！



IV 今年度

Q. 個人執筆者の先生が困っているようです。若い先生方の実践をサポートできませんか？

A. 個別相談会を設け、**個人執筆に関わることや実践論文**、**日々の悩みを聞く相談会**を行いました。

夏休みの7月30日（土）の午前中



IV 今年度

○授業で困っていることはありますか？

○こんなプリントがあったら嬉しいな～

○この時間の授業は、どんな流れにした
らよいですか？

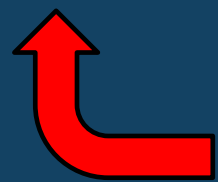


そんなニーズに応えていきたい

V アンケートのお願い



数学教育を もっと身近に！



上のQRコードを読み取って

